

リーダーたちの本棚 Leaders as Reader 98

企画・制作 朝日新聞社メディアビジネス局 広告特集

R

【読む】 Reading

「公務員だった父は読書家で、家の大きな書棚は本でぎっしりでした。私にも『少年少女世界文学全集』などをそろえてくれて、書棚が埋まっていたのが子供ながらうれしかった覚えがあります」と語る第一三共代表取締役社長兼COOの真鍋淳さん。当時の文学少年は、創業の道に進んだ。

熱意を読み、創薬事業の糧に

人体病理を学ぶ中で がん医療の名著に出会う

入社して間もない頃、私の故郷を知る先輩が、司馬遼太郎の『空海の風景』をすすめてくれました。「僧空海がうまれた讃岐のくにというのは、茅渚の海をへだてて畿内に接している。野がひろく、山がとびきりひくい」。この冒頭の文だ



1954年香川県生まれ、77年東京大学農学部卒、78年三共(現・第一三共)入社。研究開発分野で長く実績を積む。安全性研究所長、経営戦略部長、日本カンパニープレジデントなどを歴任。今年4月から現職。

まなべすなお
真鍋 淳 さん

第一三共
代表取締役社長
兼COO

真鍋 淳さんのおすすめ本棚



『空海の風景』上・下巻
(中公文庫) 司馬遼太郎・著
平安の巨人、空海の思想と生涯、その時代背景を照射し、人類普遍の思想を体得した天才の実像に迫る。構想十数年、司馬文学の記念的大作。芸術院恩賜賞受賞。



『ガン回廊の朝』上・下巻
(講談社文庫) 柳田邦男・著
1962年、国立がんセンター設立。学園・年齢を問わず、全国から集められた人材が、がん撲滅の闘いを始める。臨床医や研究者たちの不屈の姿を描く。



『道なき道を行け』(小学館)
藤田浩之・著
アメリカで医療機器メーカーを興して現地で雇用を生み出し、この輸出製造業を成功に導いた、ケオリティー・エレクトロインテック社CEOの軌跡。



『ダントツ経営—コマツが目指す「日本国籍グローバル企業」—
(日本経済新聞出版社) 坂根正弘・著
グローバル化を進め、売上高の7割を新興国市場で稼ぐ体制へ。経営改革を断行し「右肩上がり」を前提にしない経営を確立したコマツ社長が語る。



『会社の老化は止められない。一宿命にどう立ち向かうか—
(日経ビジネス人文庫) 細谷功・著
人生と同じで会社も後戻りは不可能。この老化現象を乗り越える解決策はあるのか? 「地頭力を鍛える」の著者が老化の理由と対処法を説く革命的組織論。

なかつたことも多く、史料を調べ尽くした司馬さんの空海談を堪能しました。研究職として入社した私は、辞令で筑波大学の医学研究科に入り、人体病理を2年間学びました。社内の研究部門で創業の出口のところがなかなか見えなかったのですが、筑波大でそれを補う貴重な経験をしました。がん患者の手術中にその検体と向き合い、周囲のリハビリなどに転移がないかを調べ、切除範囲を拡大するか否かを判断する、というような現場だったのです。医師や患者さんの近くにいたこの時に臨場感をもって読んだのが、「ガン回廊の朝」です。設立されたばかりの国立がんセンター(現・国立がん研究センター)で、がんの早期発見と治療に立ち向かった人々の苦闘を描くノンフィクションです。例えば、X線の二重造影法、胃がんの早期発見を飛躍的に向上させた白壁彦夫先生の試行錯誤の足跡。たまたま筑波大で指導いただいた付属病院病理部長の小形岳三郎先生が白壁先生と同じ千葉大学医学部のご出身で、熱意のある人だったと聞いていたので、臨場感を感じておりました。自分も創業を通じて医療に貢献したいという思いを強くした書です。

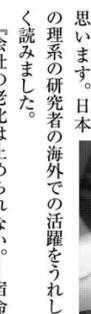
以下3冊は、経営者の視点で読みました。偶然にも、いずれの著者も私と同じ理系出身です。「ダントツ経営」を書いた坂根正弘氏は、「道なき道を行け」の著者・藤田浩之氏は、希望の大学に入らず鬱々としていた日々を別して渡米。アメリカで学んだことが第一希望ではなかったものの、そのおかげで医学工学という自分の進むべき道を見つけ、MRIの心臓部にあたるデバイスを開発・製造する会社を設立。アメリカ社会への貢献が認められ、オバマ前大統領の一般教書演説に招待されたという経歴の持ち主です。その半生を本書で知り、自分の過去を少し反省しました。大きな寄り道もせず、目の前の道を通って進んでいただけだったかと。一つ発見できた共通点は、藤田氏がオハイオ州のクリーブランドで学生をしていた頃、私も近くのコンロンバスの大学

に社費留学をしていたこと。あの辺りはラストベルト(さびついた工業地帯)と呼ばれていますが、近年は新たな産業が芽生えており、藤田氏の事業はその象徴と言えると思います。日本の理系の研究者の海外での活躍をうれしく眺めました。「会社の老化は止められない。一宿命にどう立ち向かうか—」は、「会社は人間と同様、生まれた瞬間から老化の一途をたどり、決して若返ることはない。したがって会社ももうまい年の取り方を考え上た上で「リセット」をかける必要がある」ということをキーメッセージとしてしています。最初に「会社の老化化チェックリスト」という15項目が出てくるのですが、あてはまる内容が多くて弱まりました(笑)。熱力学で用いる「エントロピー」(成果につながるエネルギー)の概念を組織体にあてはめられることも、理系の人間にとっては面白かったです。部門間の対立、現実にそぐわない制度、不安に覆われた企業文化などが企業のエンロピーを増大させる、と本書は指摘します。終盤では「インベーターはごく少数の「変わり者」で、老化した企業の中では大量のアンチインベーターに押しつぶされて能力を出し切れない、と書いています。自分自身は「変わり者」は大歓迎。自分も過激な発言を随分してきましたから(笑)。アグレッシブな提案ができる力が、カドが削られないような企業風土を育てていきたいと思っています。(談)

た坂根正弘氏は、コマツの社長就任早々に巨額の赤字に直面し、経営改革を推進して危機を脱しました。坂根さんが好きな言葉は「知行合一」だそうですが、私も好きな言葉です。研究開発も経営戦略も、知識に実行が伴い、実行に知識が伴わなければうまくいかない。当社とコマツは業種は違いますが、グローバル企業としての取り組みや、新興国市場へのアプローチなどにも共通性を感じました。

「道なき道を行け」の著者・藤田浩之氏は、希望の大学に入らず鬱々としていた日々を別して渡米。アメリカで学んだことが第一希望ではなかったものの、そのおかげで医学工学という自分の進むべき道を見つけ、MRIの心臓部にあたるデバイスを開発・製造する会社を設立。アメリカ社会への貢献が認められ、オバマ前大統領の一般教書演説に招待されたという経歴の持ち主です。その半生を本書で知り、自分の過去を少し反省しました。大きな寄り道もせず、目の前の道を通って進んでいただけだったかと。一つ発見できた共通点は、藤田氏がオハイオ州のクリーブランドで学生をしていた頃、私も近くのコンロンバスの大学

に社費留学をしていたこと。あの辺りはラストベルト(さびついた工業地帯)と呼ばれていますが、近年は新たな産業が芽生えており、藤田氏の事業はその象徴と言えると思います。日本の理系の研究者の海外での活躍をうれしく眺めました。「会社の老化は止められない。一宿命にどう立ち向かうか—」は、「会社は人間と同様、生まれた瞬間から老化の一途をたどり、決して若返ることはない。したがって会社ももうまい年の取り方を考え上た上で「リセット」をかける必要がある」ということをキーメッセージとしてしています。最初に「会社の老化化チェックリスト」という15項目が出てくるのですが、あてはまる内容が多くて弱まりました(笑)。熱力学で用いる「エントロピー」(成果につながるエネルギー)の概念を組織体にあてはめられることも、理系の人間にとっては面白かったです。部門間の対立、現実にそぐわない制度、不安に覆われた企業文化などが企業のエンロピーを増大させる、と本書は指摘します。終盤では「インベーターはごく少数の「変わり者」で、老化した企業の中では大量のアンチインベーターに押しつぶされて能力を出し切れない、と書いています。自分自身は「変わり者」は大歓迎。自分も過激な発言を随分してきましたから(笑)。アグレッシブな提案ができる力が、カドが削られないような企業風土を育てていきたいと思っています。(談)



L

【率いる】 Leading

がん領域の 研究開発を強化

「日本No.1カンパニーとして成長」を事業戦略の一つに掲げている第一三共は、2016年度の医療用医薬品売上高が国内ナンバーワンとなり、その目標を達成した。主力の降圧剤「オルメサルタン」がバテントクリフ(特許切れ)を迎えるが、がん領域に開発資源をシフトし、新たな飛躍を目指している。中でも自社技術から生み出した抗体薬物複合体は、がん事業における期待の開発品だ。

「昨年は、がん領域で成功体験を持つアントワン・イヴェル氏をがんの研究開発部門のトップに招きました。当社の開発状況を有望視して招聘に応じてくれたのです。意思決定を迅速にする体制も整え、開発を加速していきます」

同社の製品領域は、イノベティブ医薬品、ワクチン、ジェネリック医薬品、OTC医薬品など幅広い。その多様性が国内売上ナンバーワンの原動力だと真鍋淳社長は言う。

「近年はオゾンラズド・ジェネリック(AG)事業を強化しています。AGは、先発メーカーから許諾を得て製造した、原薬、添加物、製法すべてが先発品と同一のジェネリックです。ジェネリック全体の使用割合が高まる中、AGは、今後ジェネリック医薬品の新たな選択肢になると考えており、ラインアップの拡充を図っています」

国内の高齢化に加え、海外の先進国でも高齢者比率が高まる中、がんに注力する一方で、希少疾患の治療薬を含む次世代医薬品の領域でも着実に新しい芽を育てていくという。

座右の銘は「提案と傾聴」

真鍋社長は長く研究職を務め、1980~90年代にかけては、第一三共の前身である三共の安全性研究所にて高脂血症治療剤「プラバスタチン」や消炎鎮痛剤「ロキソプロフェン」、降圧剤「オルメサルタン」、2000年代以降第一三共となってからは抗凝固剤「エドキサパン」など様々な自社開発品に関わった。

「安全性研究所は、開発候補品の毒性を検証して「ゴー」「ノーゴー」を判断する機能を持ちます。つまり全領域の開発品を見渡せる立場であり、運良く80~90年代には多くの自社開発品が生まれました。関わったプロジェクトの数も、デジジョンの数も、社内では私がいちばん多いと思います。この経験を踏まえて徹底しているのが、私の座右の銘でもある「提案と傾聴」です。つまり、若手研究者が自由に提案できる組織を作ること。私もかつては遠慮なく提案し、経験豊かなシニア研究者が傾聴してくれました。提案と傾聴がブレイクスルーにつながった例も多く見られました。型破りなインベーターと若い芽を摘まわず育てるベテランの組み合わせが重要なのです」

アイデアの目利き役を担うアントワン氏と意思を共有し、先日2人で食事をしながら、若手のモチベーションをいかに高め、開発の原動力にするかについて話をしたという。

「創業は成果を見るまでに長い年月を要する上、市場環境の変化が激しい。成功確率を見定め、一日でも早く効果的な医薬品を患者さんたちに提供できるようにしていきたいと思っています」

*ミクスオンラインより

■朝日新聞社メディアビジネス局ウェブサイトでは、
真鍋淳さんが語るリーダー論を紹介しています。
<https://adv.asahi.com/> 朝日新聞 広告 検索

本連載「リーダーたちの本棚」が書籍化されました
『私をリーダーに導いた250冊』好評発売中
朝日新聞出版 ISBN 978-4-02-331547-1 本体価格 1500円+税

三笠書房 千代田区飯田橋3-3-1
○詳細は⇒<http://www.mikasashobo.co.jp>
○(株)ブックライナー(フリーダイヤル)0120-398899
(9:30~19:00)からもご購入いただけます。
至極文庫 痛み・こり・疲れ・不調も消える 話題沸騰!
即効 **筋膜リリース** で超・健康になる!
ISBN978-4-8379-6824-6 ●定価(本体660円+税)
やさしく「押し伸ばす!」最新刊
イラストレーション 加納徳博
滝澤幸一
時間を忘れるほど面白い **人間心理のふしぎ** 6万部
ISBN978-4-8379-6798-9 ●定価(本体590円+税)
清田予紀
あの顔、その行動、この言葉に「ホンネ」があらわれる!
なぜ私たちは「隣の席」に座りたがるのか?

15.5万部突破!!
1週間で腹を凹ます体幹力トレーニング
木場克己
A5判/128頁 定価:本体600円+税
ISBN978-4-8379-2639-9
みるみる魅力的な「見た目」に変身!
意外なことに—
人生で大事なことは、すべて「腹」で変えられる。
1日5分 誰でもラクラク即効!
「きつくない」のに 確実にスッキリ!

見て「わかる」! すぐ「やせる」!
「やせたい」からこそ、「食べる」のです—
図解 食べても食べても太らない法
管理栄養士 菊池真由子
1万人の悩みを解決した管理栄養士が教える簡単ダイエット!
最新刊!! 『夏本番』前に読みたい1冊!
A5判 オールカラー 定価:本体630円+税
読んでいるうちに「ムダな食欲」が消えていく!
読んでるうちに「ムダな食欲」が消えていく!!
食べても食べても太らない法
菊池真由子 630円+税
量より質を見直すだけ!
◎肉・魚・大豆製品……タンパク質をとる人は太らない!
◎寝る前に「ホットミルク」を飲むとやせる理由
◎焼肉は、「カルビ・ハラミ」より「タン・ロース」
◎食べすぎても「キャベツ4分の1個」で帳消しにできる!
◎アイスクリームは「100円前後の商品」がおすすめ!
◎ビールを「飲んででも飲んでも太らない」法
◎「太らないおつまみ」= 枝豆、アーモンド…!
◎「厚揚げ」は、じつは理想のダイエット食
おいしく食べて、楽しくやせるコツ満載!